

令和2年度ヨコハマ市民まち普請事業 第85回部会(二次コンテスト)議事録

| | |
|--------------|---|
| 日 時 | 令和3年3月7日(日) 9:30~16:30 |
| 開催場所 | 横浜市役所アトリウム、市民協働推進センター スペースA・B |
| 出席者 (敬称略) | 部会委員) 植松、岡本、加藤、川原、後藤、杉崎、菅、鈴木 事務局) 横浜市:(都市整備局地域まちづくり部長) 榊原、(地域まちづくり課担当課長) 萩原、(担当係長) 飯野、羽賀、田口、小林 市民セクターよこはま: 加世田、山田 横浜市住宅供給公社: 岡部、都出、田口、土屋、高橋 |
| 開催形態 | 公開(傍聴なし) ※YouTubeのLIVE配信 |
| 議 題 | 令和2年度二次コンテスト 1 開会 2 辞退報告 3 整備提案の発表 4 審査員による意見交換 5 情報収集タイム 6 審査方法の説明 7 公開議論、質疑 8 公開投票及び結果発表 9 審査員からグループへのコメント 10 全体講評 |
| 決定事項 | 令和2年度ヨコハマ市民まち普請事業二次コンテストにおいて、創意工夫・実現性・公共性・費用対効果・地域まちづくりへの発展性の審査基準から以下の整備提案グループを二次コンテスト対象提案として選考した。 【整備提案】<提案グループ名> ※順番は発表順 1 「水」と「火」のある地域のほっとステーション(緑区) <Co-coya 復活プロジェクト実行委員会> 2 車椅子でもOK! だれでも集える多目的交流スペース(戸塚区) <ぐるーぷ・ちえのわ事業検討委員会> 3 子安台みんなの家(神奈川区) <子安台みんなの家をつくる会> |
| 選考基準 | 1 創意工夫 ・住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデア、ユニークさ及びデザインへの配慮 ・整備工事における地域での費用や労力の負担方法などの工夫 ・整備した施設の維持管理・運営の実施方法などの工夫 2 実現性 ・地域(地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等)での合意形成 ・関係機関との調整 ・整備する施設の維持管理・運営計画 3 公共性 ・地域の課題やニーズの的確な把握、地域への貢献度 |

| | |
|--|--|
| | <p>4 費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備の規模（数量）と整備による効果の妥当性 ・コスト削減の工夫 <p>5 地域まちづくりへの発展性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備をきっかけに地域のコミュニティが広がる、又は深まる可能性 ・整備をきっかけに地域のまちづくり活動が活発化する可能性 ・他の地域によい影響を与える可能性 |
| <p>選考提案の委員講評（得票数順）</p> | |
| <p>【提案名】車椅子でもOK！だれでも集える多目的交流スペース 【提案グループ名】ぐるーぷ・ちえのわ事業検討委員会（戸塚区） 【投票数】16票</p> | |
| <p>岡本委員 鈴木委員</p> | <p>子育て中のママ、赤ちゃんから高齢者、障がい者など多世代の方の居場所となる事を期待する。 長期にわたって活動しており、さらに活動を上積みしていこうというグループのエネルギーに感服した。利用者の子どもたちが様々な人と交わるような提案となっている。</p> |
| <p>【提案名】「水」と「火」のある地域のほっとステーション 【提案グループ名】Co-coya 復活プロジェクト実行委員会（緑区） 【投票数】15票</p> | |
| <p>後藤委員 加藤委員</p> | <p>周りの人たち、若い人にも楽しんでもらえる提案。想定整備費が500万を超えているので、委員の意見を参考に優先順位をつけて整備してほしい。 点ではない面のモデルが面白く、期待している。防災を自分に近いものと捉えられ、拠点に関わることで防災を無理なく学べるといい。地域の人と検討を重ね、良いものを整備してほしい。</p> |
| <p>【提案名】子安台みんなの家 【提案グループ名】子安台みんなの家をつくる会 【投票数】14票</p> | |
| <p>植松委員 川原委員</p> | <p>古い空き家を改修し、地域ケアプラザのように活用する創造力が良い。一次コンテストから二次コンテストまでに地域を巻き込むことに成功している。民生委員、児童委員、PTA、小学校など、これから広がりが期待できる。 子安は広い地域だが、拠点が機能し活性化するとともに、モデルケースとなって広がっていくことを期待する。 まち普請事業のなかで新しい地域の環境課題に対してアプローチをした団体であり、モデルとなっていくことを期待する。不動産会社の役割としてのモデル性と、拠点で事業を担うグループの果たす役割、これからやろうとしていること、それぞれの思いを引き続き発信してほしい。</p> |
| <p>不通過団体の委員講評</p> | |
| <p>【提案名】都市型里山ライフの普及による地域循環里山モデル構築 【提案グループ名】里山再生よこはま森のアトリエ 【投票数】9票</p> | |

| | |
|-------------------------|--|
| 菅委員 | 自分の森を管理し、市民のみなさんと一緒につくっていくのは新しい試みだったが、里山の手入れの仕組みや担い手の考え方が、審査員側に届かなかった。こういった里山再生や森林利活用については、横浜市には環境創造局などに補助メニューがあり、全国的には企業等の緑や環境保全の公的な助成財団がいくつもあるので、こうしたところから助成を受けて、活動を継続してほしい。 |
| 杉崎委員 | まち普請事業の審査基準の中に地域まちづくりへの発展性という基準があり、整備を通して、地域のまちづくり活動が活発化するかという視点では、他の団体と比較するとまだ先の未来だと感じた。みなさんが企画し、地域の人に参加してもらうだけでなく、一緒に何をやろうかと考えていくと、まち普請事業と相性がよくなると思う。いろんな選択肢を広げて、タイミングがあれば再度応募してもらいたい。 |
| (資料1) 令和2年度二次コンテスト整備提案集 | |